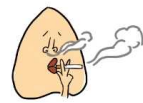


6年生のみなさんへ

すこやか

平潟小学校保健室



6年生 喫煙防止教室を振り返って

6月24日（金）、天谷医院の院長の先生に来ていただき、6年生を対象に「たばこの害について」のお話をいただきました。みなさんは、しっかりと集中して、天谷先生のお話を聞くことができました。また、暑い中、ご参加いただきました保護者の皆様にも心から感謝申し上げます。

感想文を読むと、ほとんどの児童がお話を聞く前から「たばこは体に悪い」ということは何となく知っていたようでしたが、今回、先生のお話を聞いて、たばこの害がどのような病気を引き起こすのか、体のどの部分に強く影響を与えるのか等、はっきりと理解できたようです。また、たばこを買うために年間でどのくらいの出費をしているのか、ということも勉強になりましたね。

今まで知らなかったことをたくさん知り、正しい知識を身につけたみなさんは、これから自分の体を自分で守ることができると思います。先生は医師という立場から、たばこが原因で病気になり、苦しむ人をたくさんみえます。だからこそ、忙しい仕事の合間をぬって、こうして学校をまわり、みなさんがたばこによって苦しい生活をするのがないように、正しい知識を伝えてくださっているのです。心から感謝したいと思います。

みなさんは先生が渡してくださった知識のバトンをしっかり受け取り、自分の人生を健康で豊かな人生にしてください。教えていただいた大切なお話をいつまでも忘れないでくださいね。私も、みなさんが大きくなってからもずっと健康で、そして笑顔で毎日を過ごせることを心から願っています。



保健室

みなさんの感想

(感想文の一部を載せてあります)



たばこは薬物だとわかりました。がんになりやすい、肌がボロボロになる、背ものびにくくなり、悪いことばかりでした。話を聞くことができてよかったです。

1回たばこを吸うと、人生が変わると聞いてびっくりしました。たばこを吸う人と吸わない人の肺のさわり心地までちがうこともびっくりしました。この授業を受けて、私はたばこを吸わないとちがいました。

たばこは薬物だということ、持久力がなくなったり、肺の成長がとまってしまうことがわかりました。たばこの人生にならないように、私は大人になっても、たばこは吸いません。たばこについて勉強できてよかったです。



たばこには何千種類の化学物質が含まれていて、とくにニコチンは依存性があるとわかりました。もし、友達とかに「たばこを吸って見ないか」と言われても、ぼくはことわろうと思います。

たばこは、ストレス解消にはならないことや肺がんの原因になることなどがわかりました。ぼくの身近にも吸っている人がいるので、教えたいと思います。

私は、たばこが体に悪いことは知っていたけど、薬物だということは知りませんでした。「ちょっと試しに1本」という行動がとても危険ということもわかりました。私はこの学習をして、友達がたばこを吸おうとしたら止めると決めました。

たばこは自分が吸ってなくても、まわりの人にも悪い影響を及ぼします。これから私たちは大人になって赤ちゃんをうむとき、かわいい赤ちゃんにも害をおよぼします。先生のお話を参考にしながら、たばこについて家族で話し合っていきたいです。

たばこを吸っていると、がんになる確率が高くなるということがわかりました。家族がたばこを吸っていましたが、少し前にやめてくれたので、よかったなと思いました。

先生のお話を聞いて、良かったです。たばこは吸い続けたら、お金を焼いて捨てていることと同じだし、肌もきたなくなるし、病気になったら悪い人生です。先生のお話をみんなにも教えたいです。

ブラジルのタバコ



訳：喫煙は肺がんの原因になる

経済的に豊かでないブラジルでも、タバコ税の収入より国民の健康を第一と考え、このような警告文を義務付けました。



ふたごです。↑左が喫煙者です。



右が喫煙者の歯と歯ぐき↑

たばこを吸うと、中毒になることを聞いてこわいと思いました。そして、周りの人にも副流煙という形で主流煙より多い有害物質を吸ってしまい、がんなどの病気にかかってしまうのはこわいです。私は、大人になっただけからでも、たばこは吸いたくはないと思いました。



「知識はお守りです」

たばこは危険な薬物です。なぜなら、ニコチンなどの有害物質が体中に悪影響を及ぼします。たばこを吸うとやめられなくなり、吸い続けるうちに病気になってしまうことがわかりました。毒をお金を出してまで吸いたくないなと思いました。